



結核しずおか

14号 2004年4月23日

発行

財団法人 結核予防会静岡県支部

〒420-0915

静岡市南瀬名町6-20

TEL 054-261-2512

FAX 054-261-9474

Eメール tb-shizu@topaz.ocn.ne.jp

発行責任者 金原明彦

印刷 三協印刷株式会社



巻頭言

闘病時代の結核

ストレプトマイシンが発見されるまで、結核患者は感染を防ぐため高原や林間などに建てられた療養所（サナトリウム）に隔離されて健康管理に努めながら病気の進行を遅らせるしか術がなかったのです。

昭和25年は、結核が死因のトップを占め、年間10万人以上の死者を出していた時代です。その頃、全国に141の結核療養所があって、常に満床の状態でした。当時、国立療養所清瀬病院の院長だった島村喜久治先生は、その著書「結核の正しい治し方」の中で、療養の心がまえについて次のように述べています。「人が結核に犯されてその結核と自らの課程においてたたかう。これを療養という」。多くの結核患者は仕事を辞め、愛する家族とも別れて色々な悩みを胸に秘めながら闘病生活を送っていたのです。

昭和30年代の後半、私は当時、静岡市の郊外にあった国立結核療養所に籍を置いていました。この頃は、さしもの結核もその勢いが衰え始めた時代ですが、療養生活2年から5年という患者たちでベットは、ほぼ満床の状態でした。安静と栄養をベースにストマイやパスなどの抗結核薬と胸廓成形術を初めとする外科療法もよく行われていました。

当直の晩に、咯血や容態の急変でよく起こされた記憶があります。患者の中には、長期療養のプレッシャーに負けて酒を飲む者も居てトラブルが絶えませんでした。その他、職員と患者会が合同で行った運動会や盆踊りも懐かしい思い出です。

やがて、結核の減少とともに空床が目立つようになり、療養所も最後の日を迎えました。

昭和50年のある日、残った患者を受け入れ先の病院へ送り届けたあとで空っぽになった病室の前で言い知れぬ寂寥を感じながら立ち尽くしていたことを覚えています。

平成16年4月



静岡県職員互助会診療所長 平田 唯夫
(結核予防会静岡県支部評議員)

平成16年度一般会計事業計画書

I 結核を中心とする疾病の予防思想の普及

1 全国結核予防週間における啓発

○ 全国結核予防週間 平成16年9月24日（金）～30日（木）

① 結核予防キャンペーンの実施

- ・開催日：平成16年9月25日（土）、26日（日）
- ・場所：JR静岡駅コンコース

② ポスター等の広報資料を県・市町村に配布

2 静岡県結核予防大会の開催

① 開催日：平成16年9月27日（月）

静岡県結核予防婦人会と共催

② 場所：静岡県総合社会福祉会館7階ホール

③ 内容：講演、表彰

3 広報資料の作成、配布

- ① 広報誌「結核しずおか」の発行
- ② 標語付カレンダーの作成、配布
- ③ 結核予防ポスター、結核リーフレットの配布
- ④ 「複十字」、「健康の輪」の冊子配布
- ⑤ 啓発用ビデオテープ、パネル等の貸出し
- ⑥ 出版物の斡旋

4 報道機関等への情報提供

5 県、市町村、各種団体が行う健康まつり等へのイベントに参加



II 結核を中心とする疾病の医療関係者の研修

- ① 結核予防会本部主催の研修
- ② 学会、各種団体主催の研修等

III 結核を中心とする疾病予防対策の調査研究

- ① 16市町医療紹介連絡票に基づく要精検者の追跡調査
- ② 結核感染症発生動向調査

IV 結核予防功労者の表彰

- ① 静岡県結核予防大会において結核予防功労者、結核予防功労団体の表彰
- ② 結核予防会本部表彰等の被表彰者の推薦



V 結核予防関係事業の助成及び指導

静岡県結核予防婦人会の諸事業に対して全面的に協力、支援

VI 結核を中心とする疾病の予防のための健康診断の実施

○ 平成16年度検診事業計画

- 1 学校検診事業 ・間接撮影 46,000人 ・直接撮影 490人
- 2 住民検診事業 ・間接撮影 125,000人 ・直接撮影 1,100人
・肺がん検診 110,000人 ・肺がん喀痰細胞診検査 1,500人
- 3 事業所検診事業 ・総合検診 8,480人 ・間接撮影 52,500人 ・直接撮影 3,900人
- 4 その他の検診事業（定期外検診等） ・間接撮影 1,500人 ・直接撮影 1,600人
- 5 胃がん検診 12,100人

○ 健康診断に係る医師説明会の開催

市町村保健センターの紹介

本川根町民文化会館 (健診室)

本川根町は人口3,176人、高齢化と過疎化が進み、また総合病院に行くには車で1時間以上かかります。このような遠隔地ではありますが、豊かな水と緑、隣近所が力を合わせ支え合う地域の和、温かい人情は、住む人の心をとらえて離しません。

南アルプス国立公園や奥大井県立自然公園の指定を受けるなど自然に恵まれ、観光地として日本唯一のアプト式鉄道やSLをはじめ数々の温泉を有しています。

医療機関に恵まれなかった為、昔から住民の健康意識は高く、基本検診や結核検診の受診率は常に90%以上で、また町の健康まつりや健康教育講座にも毎年多くの人が参加します。結核検診は、結核予防婦人会が対象者1人1人に通知を配るなどきめ細かい活動がなされています。

また、昔から本川根町をよく知る結核予防会の方が、どんな山奥でも険しい道をこえて巡回して下さることを住民みんなが本当に有難く感じ、毎年来てくれるのを心待ちしています。

写真の大石さん、市川さんは、幡住というたった4軒の地区の住民の方です。役場から車で40分位かかる山の中の地区ですが、たった5人の対象者の為に結核予防会の車が巡回してくれます。「こんな山奥で具合の悪い時、医者に行くのもどうしようと悩みます。それが結核検診ではむこうから来て下さる、どんなに助かるか、そしてうれしいか……。

こうして来て下さる方々がいるのだから、健康でいなくてはと思います。」と市川さんはお話しています。

本川根町役場 主任保健師 池本 祐子
(幡住地区 市川 美枝子さん・写真中央)



静岡県本川根町

裾野市健康まつり …11月9日(日)

「ふれあい健康まつり」が、晴天に恵まれ、約1万人もの市民が参加しました。足の裏健康チェック、被検者の体力年齢が即時にわかる体力測定、歯科医師・皮膚科の専門医師による相談、保健師の健康相談、各種団体の展示や試食など、健康に関する様々な催しが行われました。

また、当日は屋外で結核追加検診および骨密度測定が行われました。骨密度測定は、女性の方々の強いニーズと市民の高い関心を裏付けるかのように230人の受診者があり、年々増加しています。休憩時間（昼食時間）も十分にとれないような状況のなか、市民に笑顔で対応してくださった予防会職員の方達には深く感謝申し上げます。

結核検診においては、本年度通知方法の変更が効を奏して、平日の受診者が昨年より上回っていたにもかかわらず、この日も開催前からレントゲン車に受診者が並ぶほど盛況でした。

今後も結核への予防意識の向上も含め、市民一人一人が健康に対して高い水準での問題意識をもてるような行事の企画を検討していきたいと考えています。

裾野市健康センター 看護師 渡辺 亮子



伊豆長岡町健康まつり …10月5日(日)

“若いお父さん、お母さんもレントゲン検診”

温泉の町伊豆長岡町は、大仁町、韮山町との平成17年度合併を目指して今協議中です。

今年度も福祉のふれあいまつりと共催で健康まつりを実施しました。

保健センターでは20歳～39歳の人を対象とした、ヘルシーアップ健診（血液検査や血圧測定、医師の診察等）を企画し短時間にもかかわらず73人が受診しました。若くてお勤めしていない人は、なかなか健診を受ける機会が少なく好評でした。

健診の最後は結核予防会のレントゲン検診車です。結核や肺がんの予防啓発パネルや模型の展示、小さなお子さんには風船のプレゼントもありました。現代では忘れられがちな結核ですが、忘れた頃に…熱心に展示を見ていく人もいました。日曜日にもかかわらず結核予防会の職員の皆様には遠方より来て下さり、朝早くから会場準備もしていただきました。改めて感謝申し上げます。

伊豆長岡町健康福祉課健康グループ 保健師 天野 えり子

清水町健康まつり …11月23日(祝日)

夏の暑さも終わる頃、検診車が町内くまなく巡回する結核検診が始まります。11月の祝日は、社会福祉協議会主催のイベント「ふれあい広場」会場で追加検診を行い、また乳幼児ツベルクリン反応検査時には保護者の方への検診も併せて行い、受診の機会を多くするなど受けやすい検診を目指しています。その折には、婦人会の協力により、託児コーナーを設け保護者の方に安心して受けていただいています。妊娠されている場合は、受けられないため受付時や事前の通知（ツベルクリン反応検査通知書に同封）でお知らせしています。毎回保護者の半数の方が受診し、ついでに受診できると好評です。

検診事業は、保健委員や婦人会の皆様のきめ細かなP・R等のご協力により行われています。今後も受診勧奨を今まで以上に推進し、地域の皆様と力を合わせ検診に取り組んでいきたいと思ひます。

清水町 主任看護師 宇田 隆子



結核予防リーダー研修会

静岡県結核予防婦人会主催の結核予防リーダー研修会が、16年2月26日静岡音楽館AOIで開催された。



複十字シール運動

複十字シール募金にご協力いただき
ありがとうございました。

15年度も多くの複十字シール募金にご協力いただき誠にありがとうございました。皆様からの多くの善意の募金は、様々な形で生かされております。

15年度募金実績

組織募金	21,034 千円
郵送募金	2,510 千円
計	23,544 千円

この運動は複十字シールを媒体として、皆様からの
あたたかい善意の募金により成り立っています。



複十字シールの益金は次のように使われています

－結核や肺がんその他の胸部疾患をなくして人々が幸せであるように－

普及・啓発



国際協力



胸部検診車



活動支援



調査・研究



積立



お問い合わせ...

財団法人 結核予防会静岡県支部

Tel 054-261-2512

E-mail tb-shizu@topaz.ocn.ne.jp



第 55 回結核予防全国大会に参加して

第 55 回結核予防全国大会が、全国の結核予防関係者や福井県内の医療関係者ら約 1,700 人が参加し、3 月 15～16 日の両日にわたり福井市内のフェニックス・プラザ、ユアーズホテルフクイで開催された。

第 1 分科会では、「世界に先駆けた結核対策を進めるために」をテーマに 4 人の演者による発表が行われた。成果を上げたその陰には、関係者たちの日々の弛まない努力があり、頭の下がる思いである。また第 2 分科会では、「結核の過去・現在・未来」をテーマに掲げ、福井県立大学國分恵子教授が「暮らしと結核」～一生懸命に生きた人々～と題して、福井の悲しい過去を織り交ぜながら「多くの女子工員や兵隊が結核で亡くなったのは、産業革命や戦争による劣悪な労働条件や栄養不足が要因。健康を守るには、まず平和であることが大切だ。」と述べられた。

天々国の詩(てんてんこくのうた)

演劇は、國分恵子教授原作の「天々国の詩(てんてんこくのうた)」～結核と闘い逝った人々に誓う「結核根絶」の詩～

心中で地獄に墜ちるはずだった小説家が、なぜか天々国へ迷い込んだ。天国よりずっと住み良い極楽の天々国で、トンマ大王と楽しく暮らす 7 人の神が、それぞれ結核に罹って天々国に来ることになった体験を語り、結核の恐ろしさを気付かせ「これ以上結核で死ぬ人を作らないように…」と現世に戻って小説を書いてはと提案。結核撲滅を誓う内容を総勢 160 人のコーラスで一層盛り上げ、スタッフの御苦労が報われた素晴らしい演劇でした。



はぐるまの家

アトラクションでは、親子の駆け込み寺である「はぐるまの家」で、共同生活を営みながら苦しい境遇を克服し、社会復帰を目指し、様々な感情を太鼓に打ち込んできた和太鼓グループ「和太鼓はぐるま」による演奏が満場の拍手を浴びた。

総裁秋篠宮妃殿下より、さまざまな困難や問題があるが正しい知識の普及、更に取り組に対する方々や秩父宮妃記念結核予防功労賞受賞者に対する労いの温かいお言葉を頂き胸が熱くなりました。

特別講演「福井の絵師 岩佐又兵衛の生涯とその芸術」－国宝「山中常盤物語絵巻」は、源義朝の子、牛若丸が母 常盤御前の仇を討った物語を作家中島道子氏がリアルに話された。

大会の意義と支援くださった方々のパワーを十二分に感じた 2 日間であった。

総合健診課 看護師 杉山 久子



なぜ・なぜ・なぜに

Q. X線検査後に妊娠が判明しましたが、胎児には影響ないでしょうか？

胸部X線検査の場合、X線は胸部にしか当たらず、生殖腺の被曝はほぼゼロと考えられています。また、検査で使用される放射線量は非常に少なく、胎児への影響は無視できるので、まったく問題になることはありません。

また、胃部X線検査1回では、胎児が奇形や精神発達異常を生じる線量には達しません。

しかしながら、妊娠可能年齢の女性の方は放射線に関しての不安は深刻だと思しますので、妊娠の疑いのある方や妊娠中の方の急を要しないX線検査は避けたほうが良いでしょう。

また、授乳中のお母さんの中には母乳に影響がないか心配されている方もいらっしゃると思います。X線は人体には蓄積しませんので、この件に関してもまったく問題になることはありません。

その他放射線に関して、漠然とした不安を抱いている方は多くいらっしゃると思います。遠慮なく私たち診療放射線技師にご相談ください。

(検診課 診療放射線技師 榊原智子)



キ～オ先生の一日

作画 こいけ



第32回結核予防会放射線技師講習会

結核予防会では、毎年3月に結核予防会放射線技師協議会の総会を兼ねて、結核研究所において全国各県支部の診療放射線技師による講習会を3日間にわたり、その時代に即した講習を行い検診の充実を図っています。

今年の傾向は、今後ますますユニバーサルデザインを中心に立場の弱い人への検診のあり方、例えばJRなどの公共機関では、電車とホームのフラット化、エレベーターやエスカレーターの導入、低床バスの運行等はすでに始まっており、結核予防会においても既にリフト車の導入が始まっております。また、日本の結核感染においては、先進諸国のなかでは患者数、罹患率ともに非常に高くネパールよりも蔓延している地域もあります。これからの検診業務の課題としてハード面では、婦人科検診への対応、高齢者に対する取り組み方、より良い検診を目指し各県支部の対応や研究発表、アナログからデジタルへの切り替え、ソフト面においては、リスクマネジメントの取り組み等、結核予防会としての対応が山積みしております。

また、フィルム評価会を含めこのような講習を通じて職員の意識向上を図りながら、結核・肺がん・胃がんやマンモグラフィーなどの検診に役立て、県や市町村の御指導、御協力のもとに健康診断や各種施策・事業を推進し、結核予防会の活動に対して、皆様の御理解、御協力、御支援等をいただけるよう努力していかねばならないと感じております。



検診課長補佐兼検診係長 渡井 雅文

運転適性診断を実施!!

当財団の検診車や業務連絡車が、フル稼働する年度前半。また全職員が運転免許証をもっている当財団では、3月の「職員健康診断の日」にその全職員を対象に、1人10数分をかけて5段階評価による運転適性診断を実施しました。

日頃、ドライブテクニックにかけては、自信を持っている職員、いっぽう自分では気付かない安全運転の障害となるクセや欠点は誰でもあるものです。



車を運転するにあたって、ドライバーの「素質」である ①判断・動作速度 ②ハンドル操作・安全感覚 ③注意力などの診断を行い総合判定しました。

自分の素質的性能、技能的性能で思わぬ結果にエエ～と言葉を失う人、まああと少し安堵する人さまざま。それぞれの結果を真摯に受け止めて、今後の運転に是非生かして欲しいものです。



みんなそろって健康診断
結核検診
肺がん検診
胃がん検診



お知らせ

職員等の受章

瑞宝双光章



白鳥 岩男
(前事業部長)

県健康福祉部長表彰

静岡県結核予防婦人会では、県内各支部の協力により毎年2,000万円を超える複十字シール募金の成果や結核予防の普及・啓発活動に対して表彰を受けました。



安全運転表彰



当支部の検診車、公用車は合わせて20台。広い県内を毎日早朝から、東へ西へと走行しています。3年連続の受賞は、職員全員が「無事故、無違反」を目指して安全運転に心掛けての成果です。

編集後記

毎回この機関誌の表紙を飾ってくれました当財団職員の事業部長 白鳥岩男 さんが退職されました。白鳥さんには、何時も見事な表紙写真で飾っていただきありがとうございました。

新たに県職員OB(放射線技師)の村木弘知さんをお願いすることとなりました。今号の表紙写真は、その第1号です。富士山をバックにした赤い絨毯のようなものは、静岡県特産品の桜エビの天日干しです。

ところで、今月は「花・緑・水～新たな暮らしの創造～」をテーマにした しずおか国際園芸博覧会…浜名湖花博が4月8日にスタートしました。会期は10月11日までの6か月間。是非一度、浜名湖花博会場にお出かけになり、新しい発見や感動を体験して、私たちの新たな暮らしを探してみませんか。

(A. K)

題字：田中隆(元支部職員) 表紙撮影：村木弘知(元県職員)